

基本方針のバックグラウンド

基本理念：誰もが自分らしく夢を描き、叶えるまちへ

町田市は誰もが輝く個性、可能性、生き方を認められ、それぞれの夢を描き、叶えることができるまちを目指します。

町田市教育プラン 2019-2023：基本方針Ⅰ「学ぶ意欲を育て『生きる力』を伸ばす」、基本方針Ⅱ「充実した教育環境を整備する」、基本方針Ⅲ「家庭・地域の教育力を向上させる」、基本方針Ⅳ「生涯にわたる学習を支援する」は、次期町田市教育大綱の基本方針Ⅰ～Ⅳと整合する。

() 内はバックデータ番号

基本方針Ⅰ 子どもが自ら未来を切り拓く力を育む	<p>関連 新・町田市子どもマスタープラン：基本目標Ⅰ「子どもが健やかに育ち、一人ひとり自分の中に光るものを持っている」 (仮称) 町田市スポーツ推進計画 19-28：基本目標1「スポーツへの参加機会の充実」 町田市文化プログラム推進計画：基本方針Ⅱ「町田市の未来を切り拓く『ひと』を育む」</p>
●確かな学力、健やかな体を育むとともに、好奇心や探求心を持ち、意欲的に取り組み挑戦する力を育成する。	<p>○学力：全国学力・学習状況調査によれば、中3の町田市の平均正答率は、東京都と変わらないが、小6の平均正答率は東京都より低い(①)。 ○健やかな体：全国体力・運動能力、運動習慣等調査によれば、体力は全国と東京都と比べ低い(②、③)。 ○都市化、少子化、電子メディアの普及などに伴い、遊びや体験活動の場が減少している(④)。これにより、出会いと感動体験も減少し、子どもの興味・関心や意欲が減退している(⑦、⑧)。 そこで、学力や身体、意欲的に取り組み挑戦する力を挙げた。</p>
●幼児期からの遊びなど、様々な体験活動の機会を充実させる。	<p>○2013年調査によれば、映画・スポーツを観に行く、地域活動に参加するなど体験活動への参加は、小中高いずれも、2008年に比べ平均回数が減少している(④)。 ○自然や社会の現実実際に触れる体験は、人間的成長に不可欠であるとともに、興味・関心、意欲の向上等に繋がるものであり、その機会を創出していく必要がある(⑤、⑥)。</p>
●多様な価値観を持つ人々と信頼関係を築き、世界で活躍する人材を育成するため、理解し合い協働する姿勢やコミュニケーション能力を育む。	<p>○グローバル化の進展に伴い、外国語能力の向上とともに、互いの違いを尊重しつつ協調し、事を成し遂げる姿勢を身に付ける必要があることから挙げた(⑨～⑫)。</p>
基本方針Ⅱ 多様なニーズに応え、学びの環境を整える	<p>関連 新・町田市子どもマスタープラン：基本目標Ⅱ「子どもが安らいでいる家族があり、家族が地域とつながっている」 第5次町田市障がい者計画：基本方針(3)「さまざまな障がいや個別の状況に配慮する」</p>
●より良い学習環境を整備するため、学校のICT環境の整備、適正規模・適正配置などを進める。	<p>○教育用PC1台当たりの児童・生徒数は、多摩26市平均より低い状況にある(⑬)。 ○ICTを活用した授業改善や将来の子ども数を見据えた学校の適正規模・適正配置等は、学習環境を整える観点からは非常に重要であることから挙げた(⑬、⑭、⑲)。</p>
●家庭環境や障がいの有無などに関わらず、学ぶ機会と居場所を提供するとともに、一人ひとりのニーズに即した様々な選択肢を提供する。	<p>○通常学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒や特別支援学級に在籍する児童生徒数が増加している(⑱、⑲)。 ○社会状況の変化(核家族化、共働き世帯の増加等)により多様な価値観や生活様式が現れ、子どもを巡る課題の複雑化・多様化も進んでいる(⑮、⑰～⑳)。様々な環境に置かれた子どもや家庭のニーズに応え適切な選択を行ってもらうためのメニューを増やし、きめ細かな支援を充実させ、学ぶ機会や子どもの居場所の確保を進めるべき。</p>
●学校の経営力を高めるとともに、教員が子どもの意欲や悩みをより一層受け止められる環境を整える。	<p>○10年前と比較し、小学校教諭の1週間当たりの勤務時間が4時間以上、中学校教諭で5時間以上増加し、教員の多忙化が進んでいる(㉑、㉒)。そこで、ICT等を活用した校務改善を行うなどして、教員の負担軽減と子どもと向き合う時間を確保し、教員がその専門性等を十分に発揮できるようにすべき。また、教員だけでは解決できない課題に対する専門人材との連携や、学校の組織としての強固さを高めるなど、学校の経営力を高める必要が生じていることから挙げた。</p>

<p>基本方針Ⅲ 地域ぐるみで子どもに関わり支える</p>	<p>関連 新・町田市子どもマスタープラン：基本目標Ⅲ「子どもが地域の中で大切にされている」 町田市高齢者福祉計画：基本目標1「地域参加と生きがいの推進」</p>
<p>●家庭・地域・学校がそれぞれの役割を果たしながら連携・協働を深め、子どもの育ちを支える。</p>	<p>社会状況の変化（核家族化、共働き世帯の増加、価値観の多様化、地域社会の繋がりや支え合いの希薄化等）により、かつての学校を中心とした子どもの学びや育ちを支援する環境が弱体化している。家庭教育は第一義的には保護者が責任を持つが、地域・学校がより強固な連携・共同を進めることで、子どもの育ちを地域全体で支える必要があることから挙げた（㉘、㉚）。</p>
<p>●家庭での教育を支えるため、保護者の学びの機会を充実させるとともに、家庭教育支援の輪が地域に広がるよう取り組む。</p>	<p>家庭の教育力を向上させるため、保護者に対する学習機会の確保や、様々な主体による支援の充実を図る必要があることから挙げた（㉛）。</p>

<p>基本方針Ⅳ 生涯にわたり学び、活躍できる環境を整える</p>	<p>関連 (仮称) 町田市スポーツ推進計画 19-28：基本目標4「スポーツを通じたまちづくり」 町田市文化プログラム推進計画：基本方針Ⅰ「身近にある文化を発見し、楽しみ、伝える機会を拡充する」 町田市地域経営ビジョン 2030：3つ目のビジョン「愛着と誇りを継承する地域」 町田市高齢者福祉計画：基本目標1「地域参加と生きがいの推進」</p>
<p>●学び続け、学び直すことができる機会を充実させ、一人ひとりが生涯にわたり活躍することができる環境を整備する。</p>	<p>高齢化、長寿化が進む中で活力ある社会を実現するためには、誰もが社会の担い手として活躍し、また、それを支える学びの場の確保が必要となることから挙げた（㉜、㉝）。</p>
<p>●先人が育んできた豊かな自然、歴史・文化資源やスポーツなどの町田らしさを活かし、地域や生活に根差した学びの機会を充実させる。</p>	<p>地元に関わる学習を進めることは、愛着や誇りの醸成に繋がり、それが自らのアイデンティティの創出や、世界と繋がる中での異文化理解の基礎となる。町田の自然・歴史・文化・スポーツなどを活かした学習によって、身近な地域や生活に関わる課題を解決していく学びの機会を充実させる必要がある（㉞～㉟）。</p>